

第3回南丹市総合振興計画審議会 会議録

日 時	平成29年6月13日（火） 9時30分～11時30分
場 所	南丹市国際交流会館 3階 第1会議室
出席者	<p>【委 員】</p> <p><出席></p> <p>小沢修司会長、中村一夫副会長、小中昭委員、仲村学委員、森爲次委員、川勝儀昭委員、木戸徳吉委員、榎原克幸委員、大坪洋子委員、谷義治委員、本村修委員、平井智彦委員、麻田健治委員、芦田茂委員、野々口二三男委員、板山一則委員、柿迫正紀委員、神田和行委員、廣辻雅之委員、大東貢生委員、</p> <p><欠席></p> <p>野中一二三委員、大嶋久美子委員、村田泰伸委員、吉田尚容委員、樋口敏宏委員、保田芽生委員</p> <p>【事務局】</p> <p>堀江長企画政策部長、池田一行企画政策部部長（地方創生担当）、中川佳則定住・企画戦略課長、塩邊健一定住・企画戦略課課長補佐、下田真徳定住・企画戦略課係長、高屋和真定住・企画戦略課主査、松本清臣定住・企画戦略課主査</p> <p>株式会社Studio-L</p>

1 開 会【司会：中川課長】

2 会長あいさつ

○会長

おはようございます。今回は前回審議会のご意見を踏まえて修正された、基本構想のたたき案が出されています。今日と7月下旬に開催される審議会が基本構想の案についての議論になるかと思えます。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

3 議 題

（1）基本構想について

事務局より資料1について説明

○会長

ありがとうございます。何かご意見はございますか。

○委員

確認ですが、34ページの「③にぎわいの市街地ゾーン」に京都府中部総合医療センターとありますが、京都中部総合医療センターではないでしょうか。

○事務局

誤植であり、大変申し訳ございません。修正させていただきます。

○会長

前回のご意見で、「南丹市には福祉施設が多いかもしれない」というご意見がありました。それについて、どこに反映されているのでしょうか。

○事務局

施策別の基本方針に記載させていただく予定です。南丹市の特徴として前面に出していきながら、個別施策でも出していきたいと考えております。

○会長

南丹市の福祉施設は多い、ということは確認されましたか。

○事務局

担当課に一覧表を確認し、京都府下で何番目かまでは確認できていませんが、数が多いことは確認できました。

○委員

定住促進を重要施策の1つとして位置づけています。しかし、今の南丹市を見ると、極端な話ですが、園部町と八木町の市街化区域で人口を増やし、南丹市全体をカバーするという定住促進策でいいのでしょうか。日吉町と美山町の中山間地域では、どんどん人口が減っており、村の維持ができないという課題が出てきています。園部町などにおける区画整理事業のおかげで南丹市全体をカバーできていますが、周辺部では人口減少が進んでいるというのが現実です。こういったことについても、計画で触れる必要があるのではないのでしょうか。

また、具体的な施策の内容について、他の審議会との議論内容などとリンクさせることも重要な課題ではないのでしょうか。

○事務局

定住促進関係については、4年前に策定した定住促進アクションプランに基づき、各種施策を進めているところです。それぞれの地域に合った定住促進を基本に置いておりますので、そのことを踏まえた総合振興計画の記載にできればと考えております。

また、他の審議会との整合性についてですが、可能な限り、最新の議論の内容を総合振興計画に取り入れる形でリンクさせたいと考えております。

○会長

たたき案の6ページの最初の部分に、整合性をとる形で進める必要があるということが記載されているので、その意を踏んでいただければと思います。もちろん、どのように整合性をとっていくかが課題となります

市民ワークショップを踏まえて、地域ごとの課題を出していくと聞いております。その際に地域ごとの目指すビジョンを出していただければと考えております。

○委員

たとえば高齢化率の数値だけをみると、良い数字に見えてしまいます。周辺部の課題も把握する必要があります。

他の計画との整合性をとるとなると、8月に中間案をスケジュールではかなり厳しいのではないのでしょうか。

○事務局

第1回の審議会でもご指摘のあったとおり、スケジュールは厳しい状況にあります。ですが、12月に上程するというスケジュールどおりに努力していきたいと考えております。

○会長

期限内でしっかりと整合性をとるということで、事務局には頑張っていただきたいです。

○委員

課題の中で、7番目の「協働のまちづくりの推進」について、単に小規模多機能自治体にすればいいというわけではないので、行政の関わり方も具体的に考えていただきたいです。

○事務局

地域や集落の実情などを加味しながら、検討させていただきます。

○委員

文言についてですが、さまざまところに少子高齢化、高齢化、超高齢化が出てきていますが、整合性はとっているのでしょうか。

○会長

今後、整理をしていただくということでもよろしくをお願いします。

○委員

31ページの「(7) 行財政運営・協働のまちづくりについて」の中で、「地域振興会制度を南丹市全域に広げていくこと」とありますが、ここまで明記してもよいのでしょうか。一括りにできない部分もあり、小学校跡地施設の活用などでしっかりと取り組まれている地域もありますので、精査していただく必要があるかと思えます。

○会長

美山の地域振興会制度については、画一的に広めてよいということではないですが、貴重な取り組みが南丹市にあることは示しておきたいため、文言に気をつけながら、記載する必要があるかと考えております。

○委員

重要なことは地域コミュニティの形成にしっかりと取り組んでいくということであり、協働のまちづくりというのは一番重要なことですので、十分検討をお願いします。

○会長

まだまだご意見はあるかと思いますが、第4章の施策連携プロジェクトについて事務局より説明をいただいた後、改めてご意見を頂戴したいと思います。

事務局より資料2について説明

○会長

ただ今ご紹介いただいた7つのテーマは第4章に入るということでしょうか。

○事務局

そのとおりです。

○会長

7つのテーマが出てきた経緯について、説明をお願いします。

○事務局

庁舎内の各課ヒアリング、市民団体のヒアリング結果を踏まえて、事務局での協議を経て、この7つを挙げさせていただきました。

○会長

この7つのテーマでよいのか、別のプロジェクトが必要ではないかなどのご意見があれば、よろしくお願いします。

○副会長

施策連携プロジェクトは関係各課の連携によって、さまざまな施策の融合によって効果が上がるという観点で案が出ていると思いますし、この方向性でよいと考えています。

さらに言わせてもらおうと、この総合振興計画では大きな重点課題として定住促進を挙げています。また、先程から議論されている、コミュニティの活性化もですが、これら2つは南丹市内での雇用やビジネスといった経済的な活性化に密接に関わってくるのではないのでしょうか。

その意味では、この施策連携プロジェクトのすべてについても、ビジネス的、経済的な効果という観点も少し視野に入れて内容の充実を図り、そのようなことから定住促進につなげていくとよりよくなるのではないのでしょうか。

○委員

各プロジェクトを否定する気はありませんが、テーマ1だけ「バイオマス利活用プロジェクト」となっています。内容は環境に関するプロジェクトでよいとは思いますが、なぜ具体的な名称になっているのでしょうか。

また、「定住促進」に的を絞ったプロジェクトがありません。もちろん、各プロジェクトは定住促進につながるのですが、重要施策の柱として位置づけた「定住促進」については具体的なプロジェクトがみられません。このプロジェクトを見るだけでは、「定住促進」があまり見えてこないのはいかがなものかと考えています。

○会長

私の理解では、「定住促進」でプロジェクトを作ってしまうと、定住促進が8つのうちの1つになってしまい、重要度が低くなるということに配慮されたのではないのでしょうか。

それにしても、7つのプロジェクトが全体でどのように「定住促進」につながってい

くのか、その見取り図はしっかりと示していただく必要はあるかと考えています。

○委員

周辺部は過疎化どころか過疎になっており、園部町内ですら小学生が1人しかいないという地域も出てきています。町の中心部だけを活性化するのではなく、周辺もどこか光っているというような内容にしてはどうでしょうか。

○会長

旧町単位でなく学区単位などもあるわけですので、地域のあり方を示すことが総合振興計画にとって重要ではないかというご指摘でした。

○委員

27ページに、南丹市には「4つの大学等と連携協力に係る包括協定を締結し…」とありますが、どのような形で連携協力をしていくのかが明らかでなかったように思います。南丹市は学生のまちであると謳うのであれば、第3章に反映された形で南丹市では何で大学と連携していくかを内容に含めてもよいのではないのでしょうか。

○事務局

連携協力の具体的な内容をどこまで明記していくかについては、担当課と施策内容については検討したいと考えております。

○会長

大学との連携のあり方を考えるような個別計画というのは特にはないのでしょうか。

○事務局

現時点ではございません。

○委員

施策連携プロジェクトの中で、これまでさまざまな大学が連携でやってきたこと、あるいは市として大学にやってもらいたかったことが多々あると思います。それらを何らかの形で実現するプロジェクトを立ち上げる、ということはあるのかなと考えています。

学生のまちであるということを謳われるのであれば、それを活かして何をやっていくのか、学生が関わってどういうことをやっていくのかを記載されていれば、大学側としても連携協定に向けて動きが見えやすい点で望ましいのではないのでしょうか。

○委員

市内には、公立や私立の高等学校があり、また行政区外の高等学校が通学圏内となっている地域もあり、高等学校との関わりについても加えることはできないでしょうか。

○会長

施策連携プロジェクトのテーマ2について、小・中学校と大学の記載となっているが、高等学校も関連したものになるので、小学校から大学までということで、検討をおねがいします。

資料3のアンケート調査結果が速報として出されていますが、ご報告されることはありますか。

事務局より資料3について説明

○会長

速報ではない報告書はいつ頃、完成しますか。

○事務局

7月にはクロス集計も含めてできる予定ですので、皆様にお知らせさせていただきます。

○会長

市民の方が南丹市の現状についてどう認識されているのか、どのような思いを持っておられるかを示す大変重要な報告書です。総合振興計画策定にあたり、依拠しなければならないものですので、この審議会でも紹介できるようにお願いします。

また、総合振興計画のキャッチコピーも、市民の皆様に自分のこととして受け止めてもらえるような計画にするためには重要です。アンケート調査結果の「南丹市のお宝」「南丹市の誇り」の回答が関係してくると思いますので、7月の第4回審議会ではキャッチコピーも含めて、ご議論いただく必要があるのではないのでしょうか。

○委員

問39についても、参考としてこの審議会でお示しいただきたいです。

○会長

問39については、特徴的な意見をお示しく下さい。

○副会長

資料1の13ページに産業構造の状況が記載されていますが、市内から京都市などに通っておられる方と、市内に勤めておられる方の比率はどうなっていますでしょうか。また、それぞれの視点を計画の中に盛り込んでいく必要があるのではないかと考えますが、事務局はどう考えていますでしょうか。

○事務局

市内勤務と市内から通っている人の比率は国勢調査に出ておりますので、計画の中で触れていく方向にいたします。

○副会長

私は京都市役所に勤めておりましたが、京都市の周辺となる都市との融合や連携が活性化につながるという視点で議論を進めておりました。そういう意味では、南丹市は農業や林業などの地域特性を踏まえて、良い資源を持っているところなので、観光客の多い京都市から京野菜などを使って観光客を結びつけるとか、あるいは、耕作放棄地を活用し、地域を活性化させていくなどを、まんべんなくではなくプロジェクトを組むなどして、少し画期的な動きをしない限り、活性化が図れないと思います。そのあたりを含めて、地域ごとでも大きな違いがある中どう取り組んでいくか、活性化させていくのかを具体的に考えて、方向性として盛り込む必要があると思っています。

○委員

確認ですが、41ページ以降は次回審議会には追記されるのでしょうか。

○事務局

次回審議会には担当各課が目を通したものをお渡しする予定ですので、その時に改めてご意見を頂戴したいと思います。

○委員

アンケートの有効回答率が今年度は大きく減少していますが、何か理由はあるのでしょうか。

○事務局

今年度の調査期間をゴールデンウィークと重ねていたのですが、ゴールデンウィークと重ねたことで減少する結果になったと内部で分析しております。

○委員

有効回答率の減少は、市民の中でやる気のある人が増えている一方、やる気をなくし

ている人も増えていることが原因かと考えていました。調査期間が原因ならばよいのですが、市民のやる気を喚起させていくことは重要だと考えています。

大学との連携について、一昨年、教員の方から南丹市を授業で取り上げて調べてみたいということで、南丹市園部町の課題について学生がワークショップを行いました。市役所への働きかけまでは実現できていませんが、こういう形での大学との関わり方もあるのではないかと思います。

○会長

市民ワークショップの際、検討中でしたら恐縮ですが、ゼミの一環で学生に参加してもらうことも考えていただけないでしょうか。

○委員

市民意識調査について、このアンケート結果に基づきまして、大きく評価がされていますが、一番多い回答を書かれているところもあれば、一番少ない回答を書かれているところもあります。これはどういう基準で分析されているのでしょうか。

○事務局

特に一番多い回答に限らず、ポイントだと考えられる点を内部で分析し、評価しております。もしお気づきの点などがあれば、ご意見をいただけたらと思います。

○会長

ご指摘のとおり、注意してまとめていただくようお願いします。

さまざまな課題が出てきたと思います。それらを踏まえて、次回は7月27日、その次は8月末で中間案をまとめるということです。7月27日には総合振興計画の全体像がしっかりと見える形でお示しいただけるよう、お願いします。

(2) その他

事務局より参考資料について説明

○会長

職員研修に参加された方も参加されるということで、職員の方にもぜひお声をかけていただきたいです。委員の皆様も、市民を巻き込んだワークショップがどう行われようとしているかを知ることは重要ですので、可能であればご参加の方をお願いします。

○委員

開催場所はどちらでしょうか。

○事務局

場所はまだ確定しておらず、申し訳ございません。確定次第、すぐにお知らせいたします。

○会長

それでは、本日の審議会は終了とさせていただきます。

4 閉 会

○事務局

閉会にあたりまして、中村副会長よりご挨拶を頂戴いたします。よろしく申し上げます。

○副会長

お忙しい中、ありがとうございました。本日も活発にご議論いただき、さまざまなご意見が出ました。それらを踏まえて、7月下旬の第4回審議会でも活発な議論ができ、より充実した総合振興計画ができればと思います。今後とも、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

以上